



2026.5.28 第2号

森田 博

3年「チョウを育てよう」
たまご→よう虫→さなぎ→
成虫へ！！



モンシロチョウ完結！！



キャベツのうらに産み付けられ卵から、産まれたての小っちな幼虫を顕微鏡に乗せると、、、動画↓
よちよちと16本の足を吸盤のように葉に吸いつけながら歩いている様子がわかります。これには、みんな大喜びでした。普段はルーペや虫メガネで観察していますが、光学顕微鏡で観察すると小さな世界がこんなに大きく見ることができます。まるで別世界です。

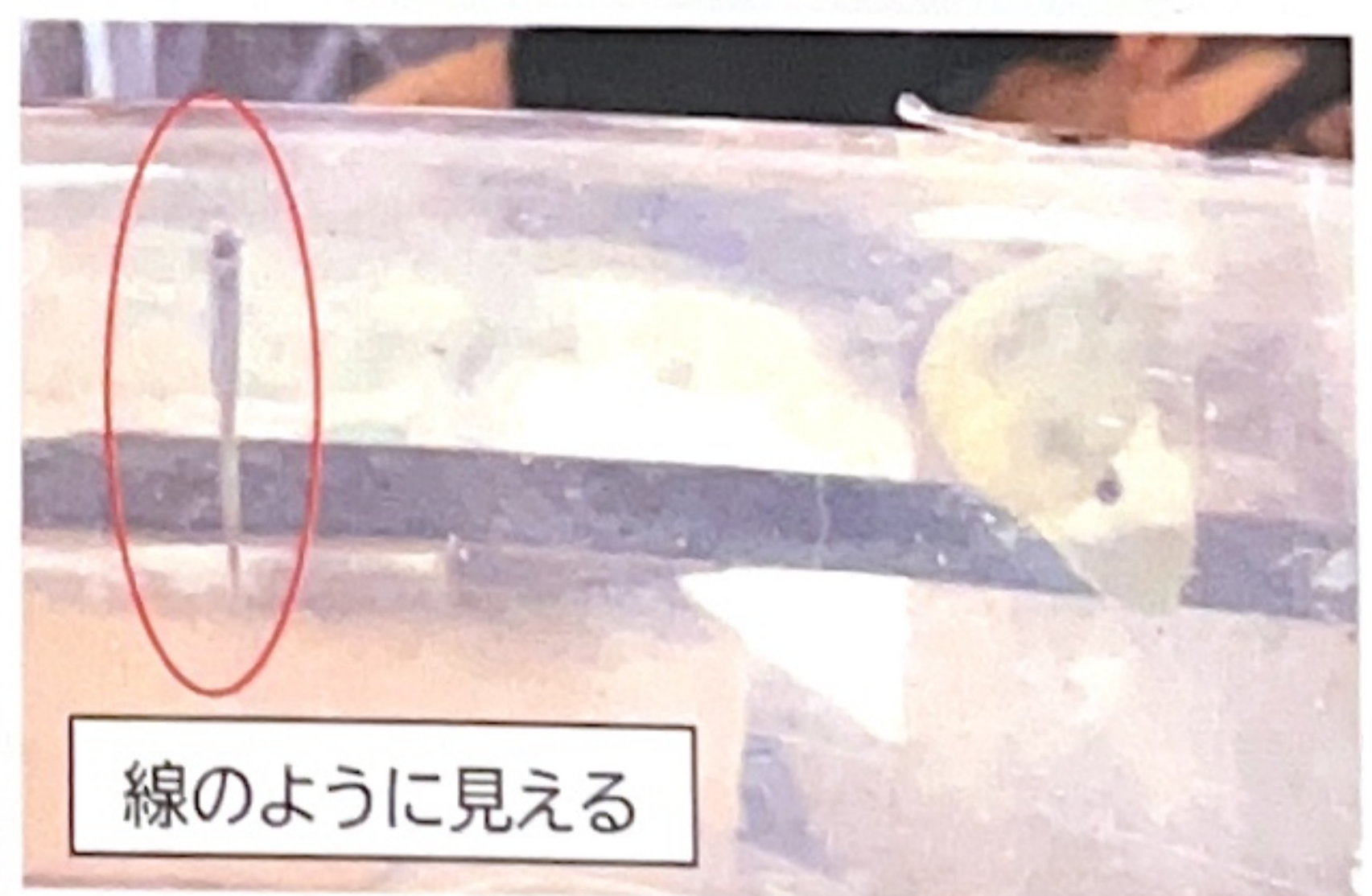


そして、いつしかサナギになりました。さて、さなぎは、茶色のものと緑のものになり



ました。「どうして色が違っているのかな？」子どもたちは考えます。「キャベツを食べたから緑色！」「茶色いキャベツ食べた？」「緑の葉っぱに止まっているから？」「おおー！！正解！」知っている子は知ってますね。実は、敵に身をかくすためと

わられています。さなぎになる前の環境で、さなぎの色を変化させているそうです。しかし、そのメカニズムはまだ解明されていないと聞いたことがあります。おもしろいですね。キャベツについていたたくさんの卵からたくさんの幼虫が孵化し、



たくさんさなぎになったということは、たくさんのチョウが羽化するということで、期待通り十匹以上もチョウになりました。金曜日に来るたびに、教室のまどから逃がしてやっています。飛び立つ姿は本当に嬉しそうに見えるから、見ている子どもたちも嬉しそうに見送っていました。

さて、モンシロチョウの羽は本当にすごい機能をもっています。まず、裏から見ると黄色。外側から見ると白いです。また、黒点があり、敵から見ると大きな目玉に見えるそうです。また、蛾は羽を開いたまま止まっていますが、チョウは羽を閉じて止まるという違いがあります。3枚目の写真を見てください。羽を閉

じるとなんと一本の線に見えます。これも敵から見えにくくする知恵です。いろいろな身のかくし方や見え方、守り方を工夫しながら、生き延びる技をモンシロチョウは備えています。それを知った子どもたちは、深くうなずきながら、観察を続けていました。

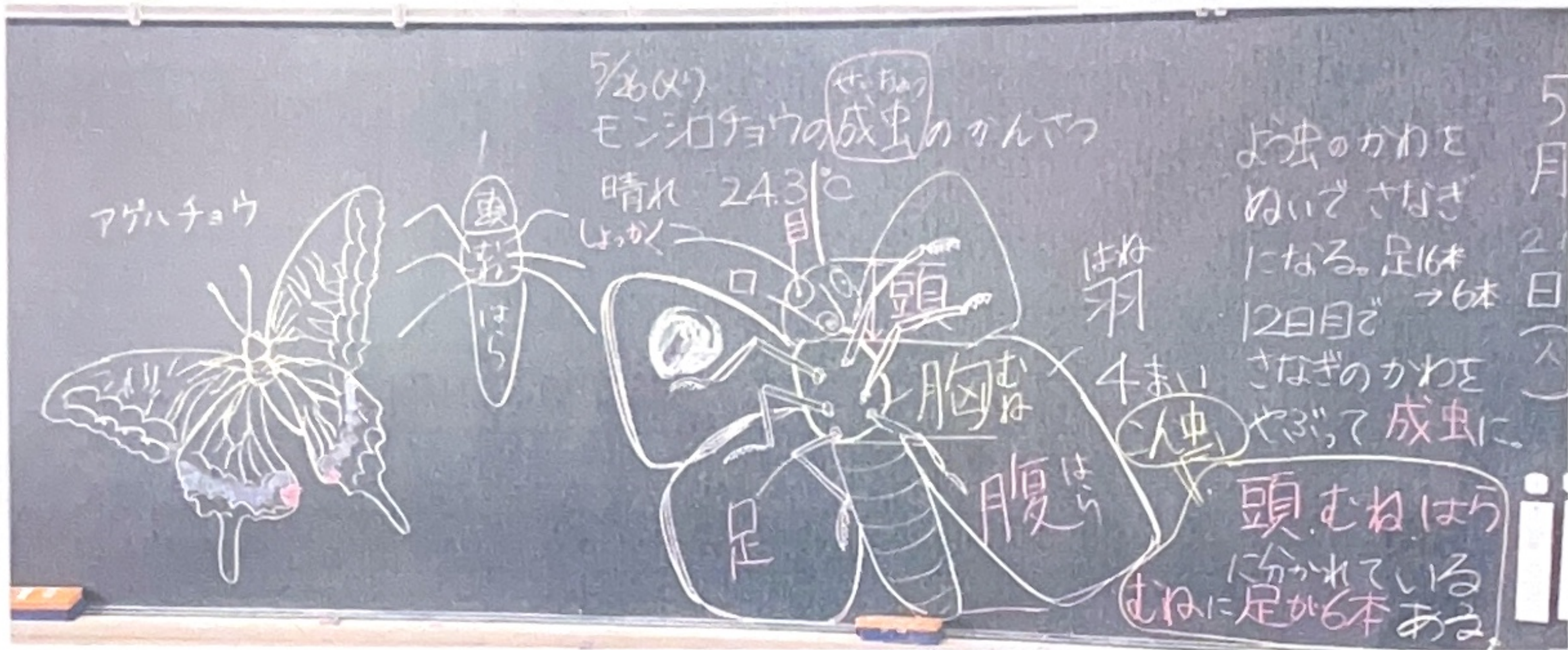
2枚目の写真をみんなで見ながら、昆虫の特徴である「頭・胸・腹」学習し、胸から6本の足がはえていることを知りました。今後のバッタやトンボの学習にもつながる内容を観察を通して理解しました。

今回の大切な3つは、①幼虫からさなぎ、成虫と3つに変化して成長する。(完全変態)

②チョウの体は、頭、胸、腹の3つに分かれている。

③敵から身を守るために、さなぎの色が変化し、羽の機能が優れている。

この3つが合っこそ、モンシロチョウは生き延びられ、また次の卵を産むために飛び立っていくわけです。モンシロチョウの3アウトチェンジ！が完結しました。



～子どもたちの理科ノートのスケッチ～

